

解	新聞・テレビ・ラジオ
禁	平成14年2月28日

総合評価落札方式の導入について

記者発表資料

大保脇ダム本体建設工事において、沖縄総合事務局開発建設部では初めての総合評価落札方式を導入する試行工事を行うこととしましたので、お知らせします。

平成14年2月28日
沖縄総合事務局

記者発表

沖縄総合事務局記者クラブ

問い合わせ先

内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 (098-866-0031 (代表))
技術管理課 (098-866-0408 (直通))
課長 浅田 敏光 (内線3311)
課長補佐 上原 勇賢 (内線3312)
河川課 (098-862-1457 (直通))
課長 三輪 賢志 (内線3611)
課長補佐 平良 正光 (内線3612)
〒900-8530 那覇市前島2丁目21番地7号

総合評価落札方式の導入について

【大保ダムの概要】

大保ダムは、沖縄北西部河川総合開発事業の一環として、大保川水系大保川の上流に建設するもので、洪水調節、下流河川の適正な流量の確保・水道用水の供給を目的とする多目的ダムです。

【大保脇ダム本体建設工事の概要】

1. 工事種別：一般土木
2. 工事場所：沖縄県国頭郡大宜味村字田港地先
3. 工期：約50ヶ月
4. 工事概要：中央コア型ロックフィルダム（堤高66m、堤頂長445m）
基礎掘削 約782,000m³
基礎処理（グラウト） 約32,000m³
堤体盛立 約1,823,000m³
沢処理（CSG工法） 約33,000m³
仮設備（濁水処理設備等） 1式

【技術提案（VE提案）の概要】

これまで沖縄総合事務局では沖縄県赤土等流出防止条例に基づき、赤土等流出防止対策を実施しながら工事を行ってきました。

今回試行する大保脇ダム本体建設工事においては、工事区域が本島北部に位置し、ノグチゲラ（国の天然記念物）をはじめ貴重動植物が多く生息しており、また大保川本川下流の塩屋湾では養殖漁場が在り、工事の実施に当たっては赤土等流出防止対策が特に重要となります。また、脇ダム本体直下流には集落が在り、工事の実施に当たっては騒音への対策も必要となります。

これらを勘案し、今般、大保脇ダム本体建設工事において騒音対策及び赤土等流出防止対策における対応可能降雨量について技術提案（VE提案）を受け付ける総合評価落札方式を試行することにいたしました。

2月28日（木）に官報公告を行うとともに、沖縄総合事務局及び北部ダム事務所において、入札に係る掲示を行います。

【総合評価落札方式とは】

総合評価落札方式は、入札において価格と価格以外の要素を総合的に評価して、発注者にとって最も有利な者を落札者とする方式で、「入札時VEの総合評価落札方式」といい、最低価格の入札者が必ずしも落札者とはなりません。

この方式は、工事に要する価格以外の要素を特に重視しなければならない工事を対象としており、例えば、民間において技術開発の進展が著しい工事や施工方法等に関して固有の技術を有する工事などに対応した入札方式です。

